



1. 2021 学年度の選考を全地区で実施

2021年4月採用の新規米山奨学生の面接選考が2月中旬までに、全国34地区の各選考委員会によって行われました。

学部・修士・博士課程奨学金と地区奨励奨学金、クラブ支援奨学金の申込者1,434人のうち、638人が合格内定者として選出されました（今後、他の奨学金合格等による辞退・繰上げによる人数変動あり）。このほか、渡日前採用型の海外応募者対象奨学金に12人（12地区）が合格内定者として選出されました。

これらの内定者は2月15日の選考・学務委

員会での協議を経て、今後の常務理事会、理事会（書面協議）を行い、合格者として承認されました。合格通知は大学宛てに発送済みです。2021学年度の奨学生数は、この新規合格者と昨年度からの継続奨学生を合わせた912人（3月11日現在）となります。なお、台湾および韓国の米山学友会が候補者（博士号を持つ上級研究員）を推薦する海外学友会推薦奨学金は、1月末の推薦期限を設けていましたが、新型コロナウイルスの影響により期限を3月末まで延長しています。

2. コロナ禍での終了式 — 各地区の事例 —

奨学生を送り出す終了式の季節です。コロナ禍も2年目に入り、地区では頭を悩ませ、さまざまな工夫をしながら奨学生を送り出しています。各地区の米山委員長に話を伺いました。

第2530地区【福島県】 昨年の終了式は中止にしましたが、今年はZoomで開催しました。挨拶や一言をそれぞれ発表するだけでなく、米山委員有志による甚句、踊り、合唱等を織り交ぜ、思い出に残る企画としました。



第2760地区【愛知県】 時間を短縮してクッキーとお茶を出す予定です。当地区は奨学生数が全国でも最多レベルなので二部制も検討しましたが、Zoomも併用しながら全員揃っての記念写真を撮ってあげたい。今年度は奨学生との距離が少し広がってしまった印象があります。

第2620地区【静岡県・山梨県】

二県にまたがるため全体での終了式は行わず、奨学生の各世話クラブの例会で、ガバナーからのメッセージを読み上げ、委員会が用意した花束と記念品を贈呈するセレモニーの時間を設けていただくこととしました。

第2700地区【福岡県・長崎県・佐賀県】

奨学生・カウンセラー・指導教官の3人を10分間隔で会場へお呼びし、終了証を授与しました。その後奨学生のみ残ってもらい、記念撮影しました。9人の終了式を100分で行いました。



3. 寄付金速報 — 依然として厳しい状況 —

2月までの寄付金は、前年同期と比べて2.0%減（普通寄付金：1.8%減、特別寄付金：2.1%減）約2,200万円の減少となりました。

新型コロナウイルスの国内感染者が出始め、日常生活に影響を及ぼすようになってからちょうど一年。昨年2月時点の前年同期比は約3,400

万円減でしたが、今年はそこからさらに2,200万円の減少となり、厳しい状況が続いています。ご寄付は1円単位でお受けすることができます。少額でも構いませんので、お気持ちを形にいただければ幸いです。何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

4. 茨城ロータリーEクラブのご紹介



米山学友などロータリーファミリーが中心となって2019年5月に設立された茨城ロータリーEクラブ。現在の会員15人のうち米山学友は6人で、創立当時から今年度まで会長を務めているのは徐佳鋭さん(2013-14/水海道RC)です。

創立ガバナーの高橋賢吾氏から、「ロータリークラブはいつでも作れるものではなく機という

ものがある。地区の理解、スポンサークラブの理解、条件を満たす会員数、すべての条件が揃う時はまさにチャンス」と熱心に口説かれ、入会を決意した徐会長。

Eクラブの通常例会は、ホームページに掲載された動画や資料を各自が1週間のうちに閲覧し、意見を書き込む形式が主流ですが、同クラブでは会員が参加するLINEグループを作って、普段の連絡はもちろんのこと、資料配布や月に2回開催する例会も、LINEの画面越しに顔を合わせて行われます。「ロータリーはやはり、顔を合わせないと例会じゃない気がして……」と、徐会長は言います。

2019年秋には、台風で大きな被害を受けた水戸市へ軍手と土嚢袋を寄付、昨年5月には地元の保育園へ消毒液を、茨城県へマスクを寄贈するなど、着実に活動を重ねています。

5. 未来に羽ばたけ！カウンセラーのメッセージ

ベトナム出身の奨学生、チャン ティ トウ クックさんのカウンセラーを務めた高松RCの水重克文氏からのメッセージを紹介します

奨学生のクックさんが自転車で通学時、交通事故に遭った。コロナ禍で例会が制限され、会う時間も充分に取れていなかった。そうしたストレスが、クックさんの明るさに影を落としているように感じた。既に決まっていた大学院への進学を諦め、社会人として自立する道を選んだと聞かされた。母国の両親とも電話で相談したようで、まずは日本で就職し、将来的には母国への帰国を望むとのことだった。

そんな時、高松に本社を置く四電工が、ベトナムで関連事業を行う会社を設立することを知った。個人的な知り合いがいたこともあり、クックさんのことを相談することにした。もちろん入社依頼などではなく、正規の手順を経る

ことを前提に、選考の中に彼女を入れてもらえないかという相談だ。クックさんは入社試験や面接のトレーニングと同時に、TOIFLへのチャレンジや、会社で使用するCADの勉強も同時に開始したのは驚かされた。真面目で努力を惜しまない性格を、是非とも我が国の若者にも学んで欲しいものだと思った。

クックさんの努力が実り、無事入社が決まって新生活への準備が始まった。例によって私は大したことはできなかったが、壊れた洗濯機の代替機の調達や転居先など、クラブの面々が私の不十分さを100%、いや200%くらいカバーしてくれた。ロータリアンの“気は優しく力持ち”にも感服した次第だ。

さあ、もうすぐ新しい生活が始まる。我が国とベトナムの新しい架け橋のタマゴが、いま芽を出そうとしている。そんな空気を醸し出す、そんな女の子がクックさんでした。ありがとう。

マレーシア米山学友会 Zoom 総会のご案内 (日本語で開催)

日時：2021年3月20日(土) 日本時間16:00~18:00 ※マレーシア時間では15:00~17:00
登録期限：2021年3月17日 登録用URL→ <https://bit.ly/3cnIWQH> ※事前登録制